



TPP推進のためだったら、どんな無茶苦茶でも言っているのか？

秋作業の前だったけど、ライスグレーダー（玄米粒の自動フルイ機）を買い替えようかと思って農協に相談しました。

「中古品ってねえのげ。新品は20万円くれえすんだっぺ」

「そんじゃ買えねえよ」

「はあ、高けえなっ」

「わがってっぺ、農家を食い物にすんのが機械屋だっぺよ」

そんな冗談を言う職員氏の目は、笑ってなかったなあ。

数年前、コンバインを買おうとしたときに、やはり農協で言われました。

「農機具で、元をとれるかもしんねえのはトラクターぐれえだよ」

「コンバインを買いに来た客に向かって、そんなの買っても元はとれねえって言っちゃダメだっぺえ」

「ホントだから、しゃあんめえよ」

そういえば昔、学校で“機械化貧乏”という言葉を知ったっけ。

＊

さて、下のコラム。恥ずかしい中身なので、武士の情けでもないけど、新聞社名は伏せておきましょうか。で、筆者センセイにお教えねがいたい…気は確かか？

たとえば、兼業農家が40アールほどの水田を耕作しているとしましょうか。とれる

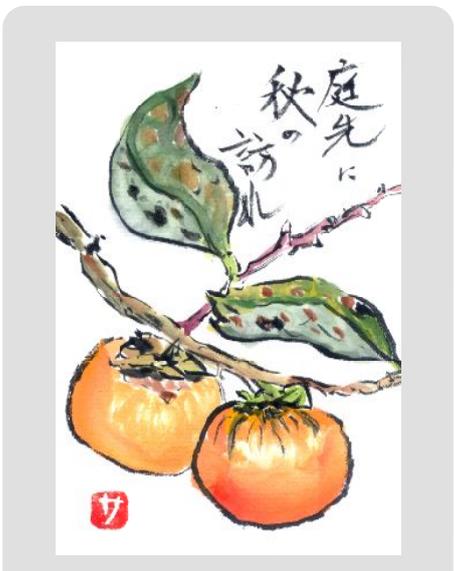
米を全量出荷すると、売上げは40万円くらい。で、たとえば収穫作業。コンバイン300万円、乾燥機100万円、軽トラック90万円、籾コンテナ30万円ほどの機械装備をすれば、週末1回だけで終わせるでしょう。

そういう例をみてセンセイは「生産性が高いと実感している」とのたまうのか？ ちゃっかり後段で、投入時間当たりの生産高とやらに言い換えてしまって、なんとも悪質なすり替えではありませんか。

ついでに、日本の農産物が高いと言われるけど、それを生産するための資機材が高価なのは農家の責任なのかい。

＊

水田に人影が少ないのが生産性が高い証拠だってえ!? あのださあ、逆でしょ。野良で働いている人が少ないのは、儲からない証拠だとは考えませんか。つまり、カネの面からすれば、生産性は低いとみ



里のギャラリー 177

るべきじゃないの？

そんなムチャ文を大新聞に書き散らかして飯が食えるセンセイであれば、水田を見に行ったとしても平日の9時～5時あたりだったのかな。でもね、米を作って飯を食えないのが農家。夏だったら、勤めから帰って夕方の6時くらいに田んぼに来てみてくださいな。汗だくで草刈りをやっている兼業農家の姿を見ることが出来るよ、きっと。

ま、「草取り」なんて書き流してるのが、現場を観察してない証拠だな。そんな作業してるのは、うちくらいだつてば。

本当に日本農業は弱いのか

筆者は、日本のコメ農家の生産性は世界一級であるとの実感を持っている。苗、田植え、草取り、水位調整、防虫、収穫の一連の作業を観察すると、機械化、その他の技術の進歩で大幅に省力化され、実際の投入時間当たりの生産高は極めて高い。その証拠に、水田にはいつ行っても人影は少ない。農家の多くは兼業、さらに言えば副業である。

また、豪州や米国の大規模農業と比べ、とても日本はかなわない、という安易な結論が独り歩きしている。しかし、日本農業の生産性が国際的に見て、本当に低いという証拠もない。

筆者は、日本のコメ農家の生産性は世界一級であるとの実感を持っている。苗、田植え、草取り、水位調整、防虫、収穫の一連の作業を観察すると、機械化、その他の技術の進歩で大幅に省力化され、実際の投入時間当たりの生産高は極めて高い。その証拠に、水田にはいつ行っても人影は少ない。農家の多くは兼業、さらに言えば副業である。

2011年(平成23年)11月8日 火曜日 13版 金融情報 14

◆この欄は、第一線で活躍している経済人、学者など社外筆者の執筆によるものです。

本当に日本農業は弱いのか

消費税と農産品関税は政治的過激症を引き起こす、二つの特別な話だ。この話題になると、反対の大合唱が巻き起こる。しかし、「日本経済に決定的災厄が引き起こされる」とヒステリックなものが多く、単に現状を変えたくないと言っているに過ぎない。

消費税の話も混乱を極めていて、農業界をあげて反対の大合唱はTPP（環太平洋経済連携協定）交渉への参加問題に向けられている。この協定が目指す関税撤廃の思想が遊離に触れているようだ。いわく彼我の農業の生産性格差は絶対的であり、TPPにより我が国の農業が壊滅的な打撃を受けるという。

40年前にさかのぼるオレンジ交渉、その後果実をめぐる交渉でもこうした主張は繰り返されてきた。だが、日本の果物農家が壊滅した事実はない。

また、豪州や米国の大規模農業と比べ、とても日本はかなわない、という安易な結論が独り歩きしている。しかし、日本農業の生産性が国際的に見て、本当に低いという証拠もない。

筆者は、日本のコメ農家の生産性は世界一級であるとの実感を持っている。苗、田植え、草取り、水位調整、防虫、収穫の一連の作業を観察すると、機械化、その他の技術の進歩で大幅に省力化され、実際の投入時間当たりの生産高は極めて高い。その証拠に、水田にはいつ行っても人影は少ない。農家の多くは兼業、さらに言えば副業である。

したがって、専門化と大規模化を進めれば、同じ農家人員で現在の何倍もの生産収量を得ることは容易なことである。むしろTPPを、この高い潜在性を顕在化させる政策を議論する好機とすべきだと考える。(龍)